

# 学生の自己肯定感を高め 自主性を育てる支援体制づくり

## 金沢星稜大学

「自分を超越する力をつける」をキャッチフレーズに、自律した職業人の養成に取り組む金沢星稜大学。1年生からのダブルゼミ、資格取得のための特別学習プログラム「CDP」、自主性を育成する「星稜ジャンププロジェクト」などの教育活動を通して、学生が自らを成長させ、社会で活躍できる人材となるための支援を行っている。

### 本来の大学教育を見つめ直した教学改革

近年、金沢星稜大学は「就職に強い大学」として認知度を上げ、志願者数が増加している。これは、「自律した職業人を養成する教育大学」として自らを位置付け、2005年度から行ってきた大学改革のさまざまな施策が成果を挙げたためだ。

近年は志願倍率が3倍を超えるが、改革前の2004年度入試は1倍台で、実質的に全入状態だったという。「学生は入試を突破したという達成感がなく、大学への帰属意識が低かった。意欲も低く、自ら目標を持って勉強する学生はほとんどいなかった」と坂野光俊学長は当時を振り返る。

「このような状態で学生を社会に送り出しても、企業などが求める人材とはならない。学生を入学前よりも成長させ、自律した職業人として育てることは、大学の最低限の役割と考えると坂野学長は言う。

「社会に出れば、正しい答えがあるかどうかすらわからない中で、自ら課題を発見し、解決策を見いだす力が求

められる。これは本来の大学教育の中で養うべき力だ。それに加えて就職に直接つながる支援も行う必要がある」。同大学の教学改革は、坂野学長のこのような考えのもとで進められてきた。

### 自己肯定感にもつなげる資格取得支援体制

2005年度、基礎学力とキャリア意識の向上のために、経済学部の1、2年生に対して「基礎ゼミナール」と「ビジネス基礎演習」という2つの少人数ゼミを導入し、必修化した。

「基礎ゼミナール」は基礎学力を固めることを目的とし、SPI対策の教材を使用して国語力と数的処理能力を育成する。

一方、「ビジネス基礎演習」は、実社会で必要とされる基礎知識と問題解決能力を身に付けさせ、1年生全員のビジネス能力検定3級合格、卒業までに2級合格をめざしている。資格取得だけを目的としているわけではない。成功体験に乏しく自己を卑下する意識が強い学生を検定試験に合格させることで、「自分でもやればできる」という自己肯定感を高めるねらいもあると

いう。

ゼミは1クラス20人で週1回ずつ行われ、初年次は両ゼミを同じクラスで学ぶ。これは大学への帰属意識が低かった当時の学生にとって、居場所づくりや仲間づくりにもつながった。

同じ2005年度、資格取得をサポートする特別学習プログラムCDP（キャリア・ディベロップメント・プログラム）も導入した。公務員、税理士、小学校教員をめざす学生を支援するエクステンション講座だ。2009年度からは企業への就職を希望する学生向けの「総合コース」も開設している。CDP特待生入試も実施しており、2011年度は入学者の約半数がいずれかのコースを受講するほどの人気だという。

これらの取り組みによって、2004年度には6.6%であった上場企業内定者の割合は、2009年度には39.0%に上昇。2008～2009年度には、国家公務員や地方公務員の採用試験に40人近くが合格した。「一定の成果が数字として出たことによって、高校教員や受験生の保護者からの評価は大きく変わった」と坂野学長は言う。

### 正課外で育む自主性とチャレンジ精神

金沢星稜大学では、「自分を超越する力をつける」というキャッチフレーズの下、学生の自主性・チャレンジ精神を向上させる課外活動の場を多く設けている。その中心となるのが「学生による学生支援」を掲げた「星稜ジャンププロジェクト」だ。

「CDPは将来の目標を明確に持っている学生が参加している。将来の方向性がまだ揺れ動いていて、いろいろなことを体験したいという学生は、このプロジェクトに参加するケースが多い」と、長久保実入学・広報センター長は説明する。

星稜ジャンププロジェクトは「オープンキャンパスの活性化プロジェクト」「学生広報プロジェクト」「学生による就職支援プロジェクト」という3つの取り組みから始まった。

「オープンキャンパスの活性化プロジェクト」では、学生が中心となって企画を立て、オープンキャンパスで高校生や保護者を案内する。「このよう

な活動は、他の大学でも行っている。しかし、本学では1回ごとにきちんと総括の場を設け、次の機会に反省点をどう改善していくかを議論させている。これは企業が行うPDCAサイクルに近いものだ。プロジェクトでは、自分とは異なる世代とコミュニケーションを取る機会も生まれる。そういった経験も学生の成長にプラスに働く」と長久保センター長は話す。

「学生広報プロジェクト」では、学生が新入生向けのキャンパスガイドを作製する。企画や制作以外にも、外務業者との金額折衝も学生が行うなど、徹底して学生の自主性に任せている。

「学生による就職支援プロジェクト」では、就職が決まった4年生に3年生がインタビューを行い、冊子にまとめて、3年生以下の学生に配る。このほかにも、大学が就職支援として、船上就職合宿「ほし★たび」を実施しており、4年生が3年生以下の指導にあたっている。このような取り組みには、上級生とのコミュニケーションを通し、今の自分に何が足りないかを気づかせるねらいがあるという。

### 改革の転換期を迎え支援体制の充実をめざす

2011年度からは、さらに新しい要素を取り入れた「新・星稜ジャンププロジェクト」をスタートさせた。柱となる「ジャンプチャレンジ」は、学生から地域貢献や大学活性化などを目的とした活動の企画を公募し、大学が助成金を交付して支援するものだ。2011年7月の時点で、10企画が採択されている。

この取り組みと連動して、企画立案やプレゼンテーション、リーダーシップといった、企画の採択や運営に必要な力の向上を図る「ジャンプワークショップ」を開講。CDPのキャリア系科目担当講師が指導にあたっている。このワークショップには教職員向けの講座もある。教職員を巻き込み、学生と三位一体でプロジェクトを進めていくねらいがあるという。

「星稜ジャンププロジェクトは、学生が自らを成長させる機会をたくさん設けることが基本方針。支援体制を充実させるには、教職員の指導スキルも向上させる必要がある」と、長久保センター長は語る。

社会で活躍できる人材を育成する取り組みは、大学の活性化や就職実績の面で一定の成果を挙げてきた。そうした成果が志願倍率の上昇につながり、入学してくる学生の質も変化してきたという。

「2004年から準備を始めたこれらの改革は転換期にきている。今後は中間層、消極層に位置する学生のフォローも手厚くしながら、積極性のある学生をさらに伸ばすしくみを考える必要がある」と坂野学長は言う。学生支援体制のさらなる充実のほか、地域貢献や海外留学体験なども視野に入れた新しいプログラムを検討中だ。

図表 金沢星稜大学におけるキャリア・ガイダンスの概要（一部抜粋）

活動区分				1年次	2年次	3年次	4年次
正課授業	経済学部	ゼミナール	クラス分けテスト(SPIとTOEIC-Bridge)	基礎ゼミⅠ	基礎ゼミⅡ ゼミ報告会	専門ゼミⅠ	専門ゼミⅡ
			ビジネス・キャリア教育系	ビジネス基礎演習Ⅰ ビジネス能力検定3級受験	ビジネス基礎演習Ⅱ ビジネス能力検定2級受験		卒業研究報告会
人間科学部		フィールド体験型学習		基礎ゼミ	フィールド基礎演習	フィールド演習	専門ゼミ
正課外(その他)		就職課	就職課業務	就職支援活動	就職合宿、船上合宿(ほしたび)、アドバイザー制度、Web情報(ほしなび)、メール情報(ほしメル)など		
				就職ガイダンス	保護者のためのガイダンス	学内合同企業説明会	
			学生の自主的な活動		星稜ジャンププロジェクト		
エクステンションセンター		CDP講座	総合コース	民間企業への基礎能力養成			
			進路確定コース	公務員、税理士、小学校教員(幼稚園教諭、保育士)			
		各種資格取得講座	パソコン・IT系、会計・金融系、法律・法務系など約90講座				